



第451号
2026.5.1

発行・豊中歴史同好会
責任者 小川 滋

東大寺大仏はどのようなように鑄造されたのか

元大阪府教育庁 西川 寿勝

1 東大寺大仏とは何か

もともと、仏像とは仏教を開いた釈迦の姿を現した像です。インド西北のガンダーラでは、紀元前四世紀頃におこったアレキサンダー大王の進軍によって、ギリシア・ローマの文化や芸術が入り込みました。これがヘレニズムです。ギリシア・ローマの神々の彫像の影響を受け、インド仏教では紀元前後に仏像崇拜がはじまります。

釈迦は紀元前五世紀の実在の人物です。ヒマラヤ山脈の小国の皇子として恵まれた生活をしていましたが、これを否定、苦行・

修行の末、宗教教団を成立させます。弟子たちに戒律や教義を伝え、八十歳で亡くなると、戒律や教義は經典となって発展します。また、釈迦の遺体は火葬され、遺骨は分散、十二のストウーパ(墓)に納められました。当初は十二のストウーパが礼拝対象でしたが、五〇〇年後に仏像を礼拝対象とする寺院が出現します。寺院は中国・半島に伝わって、金堂に釈迦の像が、塔に釈迦の遺骨(舍利)やその代わりとなる宝物を納め、僧侶が常駐して經典を普及させる拠点となります。

東大寺大仏は

どのように鑄造されたのか 西川 寿勝

売布神社初詣と宝塚の古墳をめぐる

高槻古代史友の会・豊中歴史同好会合同遺跡見学会

中村 富美子

当初の仏像は釈迦像だけでしたが、仏教教義の変質とともに悟りを開いた者としての如来像、仏になるために修行している者としての菩薩像などが加わります。ただちに、薬師如来・阿弥陀如来、弥勒菩薩・観音菩薩など、如来と菩薩も多様化しました。東大寺大仏などの盧舎那仏(るしゃなぶつ)は釈迦如来の化身とされます。仏教教義がさらに変質した段階のものです。

変質した仏教は紀元一世紀には後漢の都洛陽に伝わり、五・六世紀には朝鮮半島の高句麗や百済にも伝わります。六世紀末には倭国も取り入れました。中国や朝鮮半島でも仏教は独自に発展、仏像・寺院形式も複雑に多様化します。

そのひとつが仏像表現にみてとれます。飛鳥時代前半の仏像は百済の影響を受けた